



## 副詞「めっちゃ」の使用に関する考察(二〇一六年度 卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2017-12-11 キーワード: 作成者: 古川, 愛望 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007546">https://doi.org/10.32150/00007546</a>

本研究では、本来は関西方言である「めっちゃ」という言葉が北海道でも一般的に使用されていることに着目し、副詞としての「めっちゃ」について二つの観点から考察した。

観点の一つ目は、「めっちゃ」がどのような場面では使用でき、どのような場面では使用できないのか。」である。これについて先行研究の用例に基づき、分析、考察した。その結果、「めっちゃ」には、「とても」のような程度副詞としての基本的な役割があるほか、「めっちゃ」という語自体に、量として多いことや動作の激しさが含意されること、比較構文で使用できることが分かった。また、「めっちゃ」は、否定文、改まった場面や丁寧さを意識した場面では使用できず、命令・依頼・勧誘・意志などを表す文や直接的な感謝、お詫び、ねぎらいの言葉との共起では、使用できる場合とできない場合があることも分かった。

観点の二つ目は、「関西と北海道では『めっちゃ』の使用実態に差はあるのか。」である。先行研究では関西で学生六〇名への質問紙調査が行われていたため、本学の同数の学生への調査の結果と比較することで、使用実態を明らかにした。「めっちゃ」は、元来、関西方言であるため、関西での使用意識の方が北海道よりも全体的にやや高い傾向にあった。また、関西では、程度副詞を越えた新たな用法での使用も多くなってきたが、北海道では、依然として程度副詞としての使用の方が多かった。